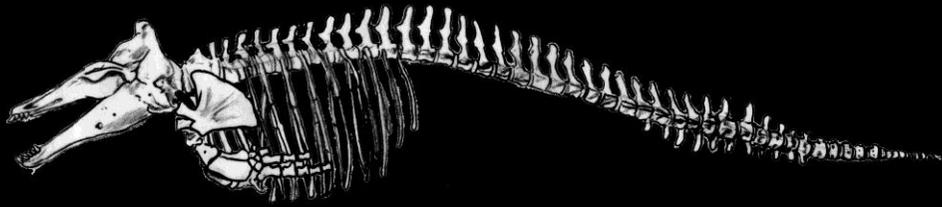


自然遊学館だより



マゴンドウ *Globicephala macrorhynchus*

Makiko Nishizawa

◆ 2004 AUTUMUN (No. 33)

◆行事レポート◆

- 二色浜の夜の海探検……………1
近木川クリーンキャンペーン……………2
野鳥のはく製づくり……………2
夏休み自由研究相談……………3
特別展普及講演会「二色浜の生きものたち」
……………4
近木川河口 生きもの調べ・カニ釣り…………4
千石荘の鳴く虫の声を聞く……………5

◆生きものよみもの◆

- 近木川の水生昆虫3：ムカシトンボ…………7
【泉州生きもの歳時記】
ハナオコゼ……………8

◆寄贈標本紹介◆

- 吉田侑生君より寄贈された
高知県産テンの本剥製……………9

◆投稿◆

- 博物館実習を体験して……………9

◆Information◆

- 遊学館スタッフの日記より……………10
秋期特別展「貝塚の植物 食用・薬用」
……………11

2004. 10. 08 発行：貝塚市立自然遊学館

Kaizuka City Museum of Natural History

◆行事レポート◆

二色浜夜の海探検

日時：2004年7月17日（土）16:00～21:00

場所：近木川河口、二色浜

普段の昼間行われる行事とは違い、夜に海辺で観察を行うとあって、子供たちにとってはわくわくどきどきの観察会です。新月（闇夜）の大潮にあたるこの日、講師の鍋島靖信さん（大阪府水産試験場）、スタッフを合わせ総勢86名が陽の傾きかけゆく近木川河口に集合しました。

まず、夕暮れにかけ満ちてくる潮に乗って岸辺にやって来る魚を投網で捕らえることにチャレンジです。子供たちにとっては大きく重い投網でしたが、網が少しでも広がるよう肩で息をしながらも懸命に練習している姿が印象的でした。

投網で採集した魚

クサフグ、ヒガンフグ、マハゼ、スズキ、ボラ、セスジボラ、キス、ヒラメ、アミメハギ、キチヌ

沈みゆく夕日を眺めながら浜辺で弁当を取り、周囲が薄暗くなり始めた頃、つづいて鍋島さんよりウミボタルという青白い光を放つ幻想的な生物の説明を受けました。そして各班で採集するためにソーセージやカナカマボコを入れたビンのトラップを沈めました。ウミボタルは鍋島さんの調査で大阪湾南部の比較的きれいな砂浜で生息していることが確認されており、二色浜ではどうかと期待したのですが、この日は採集できませ



突堤からウミボタル採集トラップを仕掛ける

んでした。こんなときのために、あらかじめ阪南市で採集して下さっていたウミボタルを皆に見てもらい、体から分泌される発光物質の光にしばし酔いしれていました。

その後、昨晚から仕掛けて置いたカゴ網に何が掛かっているか調べました。引き揚げたカゴ網にみんな興味深々でいっせいに懐中電灯を照らすと、「タコやっ！」と掛かったマダコの姿に興奮し、さらに吸盤に吸い付かれ、大あせりの人の姿もありました。

カゴ網で採集した生物

マダコ、カワハギ、イシガニ、イッカククモガニ、ケフサイソガニ、イトマキヒトデ、マヒトデ

その他、プランクトンネットで懐中電灯の光に集まるプランクトンを曳いたり、たも網でイソガニを捕まえたりして心置きなく夜の海を探検しました。

また、この行事は参加応募者が多かったため、8月28日に第2回を予定していましたが、台風17号の接近のため残念ながら中止になりました。

（山田 浩二）

近木川クリーンキャンペーン

日時：2004年7月18日（日）10:00～11:00

場所：近木川 清児橋付近

自然遊学館では、毎年大阪府との共催で、近木川の大掃除を実施しております。昨年度までは永久橋で行っていましたが、今年は場所を変えて清児橋の周辺で開催しました。自然遊学館から近木っ子探検隊として参加したのは20人。当日の様子を報告します。



1時間でゴミ袋がいっぱいに

10時会場に駆けつける。すでに近隣の住民や主催する大阪府河川課の方々、貝塚市役所の面々が多数参集していた。たくさんの人びとにマンションの窓から首を出している人、私の前を歩く二人のご婦人は「わたしらの住んでる川を掃除してくれるんやもんな、遠くやったらよう行かんけど、ちょっとでも役にたたんとな」と会話しながら河川敷へと足を運んでいく。男性の多い中、近木っ子探検隊の親子連れ、子供たちが柔らかさを生み出している。さて、主催者のご挨拶の後、三々五々、川上・川下・川の中へと青白黒のゴミ袋を手にごみを求めて散る。およそ一時間足らずの間でしたがゴミ集積場には自然のも

のとは思えないものが多く山積みされました。空のペットボトル、発泡スチロールの破片、青黒のビニール片、不要になった家庭用品等々・・・これらは、私たち人間の生活のマナーが問われるところです。水は私たち生きものにとって、もっとも大切なものです。私自身反省させられると共にみんなにも益々気をつけて水・川を大切にしていきたいものだ」と再確認しました。

（福本 泰承）

野鳥のはく製づくり

日時：2004年8月6日（日）13:00～18:00

場所：自然遊学館

市民の方々から自然遊学館に寄贈していただいた野鳥やほ乳類の死体を、「仮はく製」とよばれる標本にする作業を見学してもらおうという企画です。この日は自然遊学館の鳥のスタッフ・宮本と、ほ乳類のスタッフ・西澤が、それぞれヒヨドリやカワラヒワ、ノウサギの子どもなどを解剖し、仮はく製にしました。参加者は11名でした。

泉大津市から来た清水玲くんは、「将来外科のお医者さんになりたいから、生きものの体の中を見てみたい」と言って積極的に作業に参加してくれました。

さて、動物のはく製にはいくつかの種類があります。ひとつは「本はく製」で、これは体の形を整えてその動物が生きていたときのようなすまねて作るものです。自然遊学館のジオラマに入っているタヌキや展示ケースに並べられた野鳥などがそれです。もちろんこうして人に見てもらふ以外に、研究のためにも使われます。

もうひとつは今回作成した「仮はく製」で、研究や記録のために、標本を保管することを目的とした作り方です。仮はく製は本はく製にくらべてかさばらず、扱いが容易なのが特徴です。この方法で作ると、野鳥や小ほ乳類（モグラやネズミなど）も昆虫などと同じように標本箱や引き出しに並べて保管することができます。ふだん展示室で見ることはありませんが、自然の記録を将来に伝えていく証拠として、仮はく製はとても大切なものなのです。（西澤 真樹子）



ジオラマにあるノウサギ（成獣）の本はく製



アカハラの本はく製



ノウサギ（幼獣）の仮はく製



アカハラの仮はく製

夏休み自由研究相談

日時：2004年8月2日（日）～30日（月）

場所：自然遊学館

自然遊学館ではこの夏、自然観察とまとめ方、生き物の飼い方・標本づくり・身近な科学実験の方法など、夏休み自由研究の相談を受け付けました。

飼育ケースを抱えて虫の名前を聞きに来た子、旅先のなぎさでひろった貝の名前を熱心に調べていった家族、カニの標本の作り方を聞いていった子など、たくさんの質問に答

えました。さて、どんな自由研究ができあがったのでしょうか？

(西澤 真樹子)

特別展普及講演会

夕暮れトーク「二色浜の生きものたち」

日時：2004年8月7日（日）17:00～18:30

場所：自然遊学館多目的室

今回の夏期特別展「二色浜の生きものたち」で、展示写真を提供していただいた新野^{にいの}大^{だい}さん（海遊館）を迎えて行われました。二色浜に13年間足しげく通い、撮影した生物は300種を越える中から特徴のある魚の紹介や季節による出現種の相違などをわかりやすく話していただきました。参加した人たちは、近所の海にこんなにたくさんの種類の魚がいることに驚かれたようでした。

また、同展は自然遊学館では終了しましたが、9月25日より10月24日迄、場所を関空交流館に移して展示していますので、夏期に見逃してしまった方はそちらへどうぞ。

(山田 浩二)



スライド写真で解説する新野さん

近木川河口 生きもの調べ・カニ釣り

日時：2004年9月12日（日）10:00～15:00

場所：近木川河口、二色浜

すこし蒸し暑い9月の河口で、49名が参加して河口の生きもの調べとカニ釣りを行いました。潮騒橋に集まり、種類や雌雄のみわけ方、計測の仕方の説明を受けたあと、タクアンのついたタコ糸をヨシ原にたらしめてカニを釣り上げました。

今回釣れたのは3種。ほとんどがクロベンケイガニとハマガニでしたが、高野晴一郎くんが唯一アカマガニを釣り上げました。また、タクアンだけではものたりないとばかりに、川まで降りて大きなモクズガニのメスを水網で捕まえた人もいました。



カニの穴をねらって…

お昼をはさんで、二色浜に移動。日本貝類学会の児嶋格先生が講師に加わって、河口の生きもの調べを行いました。

先生のこの日のお題は「イボニシと、小さな貝を探してください」。ピンセットを手にした児嶋先生が、テトラポットに張りつくよ

うに探していたのはコビトウラウズガイというタマキビガイの仲間です。その大きさは5ミリにも満たないのですが、これでもりっぱな大人なのだそうです。結局コビトウラウズガイはみつからず、先生は「タマキビ4兄弟揃わなかったなあ〜」とおっしゃっていました。

もう一つのお題イボニシは、昔からていおう帝王むらさき紫と呼ばれる紫の染料を取った貝。先生持参のタオルを海水で湿らせて、金槌で割ったイボニシの身をすりつけ、日光にさらすと予想以上に濃い紫色が浮き上がってきました。

二色浜はちょうど干潮直後の時間帯にあたり、次々に満ちてくるさざ波の音を聞きながら、行事を終えました。

確認された無脊椎動物

二枚貝：アサリ、ヒメシラトリガイ、クチバガイ、クログチ、サルボウガイ、マガキ、ムラサキガイ、キヌマトイガイ、ホトトギスガイ、セミアサリ

巻貝：イボニシ、アカニシ、タマキビガイ、アラレタマキビガイ、ヒメウズラタマキビガイ、アラムシロガイ、イナザワハベガイ、カキウラクチキレガイモドキ、イズミノウミウシ

カサガイの仲間：カラマツガイ

甲殻類：タテジマフジツボ、シロスジフジツボ、ケフサイソガニ、ヒライソガニ、ヤマトオサガニ、オサガニ、ユビナガホンヤドカリ、タイワンガザミ

その他：ゴカイ類、シロボヤ

確認された魚類

コトヒキ、チチブ、マハゼ、クサフグ

カニ釣りの結果は以下のとおりです。

クロベンケイガニ 計 32 匹

オス 1 位	高野 晴一郎	甲幅 32 mm
2 位	喜多 悠香	甲幅 31 mm
	尾崎 明美	甲幅 31 mm
メス 1 位	高野 晴一郎	甲幅 35 mm
	向井 正直	甲幅 35 mm
3 位	南 彩夏・優夏	甲幅 33 mm

ハマガニ 計 9 匹

オス 1 位	松浦 郁流・有紀	甲幅 42 mm
2 位	松浦 郁流・有紀	甲幅 41 mm
3 位	向井 正直	甲幅 30 mm
メス 1 位	岡田 真太郎	甲幅 33 mm

アカテガニ 計 1 匹

高野 晴一郎	甲幅 20 mm
--------	----------

(西澤、山田)

千石荘の鳴く虫の声を聞く

日時：2004年9月25日(土) 16:00~20:00

場所：名越千石荘

自然遊学館の秋の恒例行事である千石荘の鳴く虫の声を聞く会を、講師に日本直翅類学会の加納康嗣先生を迎えて行いました。まず加納先生からバッタの体のつくりの説明を聞き、日が明るいうちに採集を始めました。ツチイナゴ、ショウリョウバッタのメス、サトクダマキモドキといった大型の昆虫が続々と採集され、鳴く虫ではオナガササキリなどのササキリ類が採集されました。水田の畦で夕食をとった後、加納先生からショウリョウバッタとサトクダマキモドキを使って、産卵方法の説明を聞きました。



鳴く虫の説明をする加納先生

採集数の少なかったクビキリギス、ショウリョウバッタモドキ、オオカマキリのメスを採集した参加者に加納先生持参の賞品が贈られた頃には日が暮れて、いよいよ本番の鳴く虫の登場です。カヤヒバリ、カンタン、マツムシ、アオマツムシなどの鳴き声が聞こえるのですが、鳴く虫の種類が多くて、聞き分けるのも難しいという状態です。また、鳴いている虫の姿を探そうとするのですが、これもなかなかまなまりません。それでも美しい虫の音と涼しい風に大きな月がそろう、なかなか風流なひと時を過ごせたと思います。

なんとかマツムシを採集しようと、学芸員の山田浩二さん、千石荘ほか貝塚市内で昆虫の調査をされている北田誠さん、行事の手伝いに来てくれた山根祥之君とともに悪戦苦闘しているうちに、最後の加納先生の説明を聞きぞびれる始末となりました。山田さんが惜しいところで逃がしてしまったマツムシのオスは次項のぼやけた写真に写っています。金魚ネットを使う山田式マツムシ採集法は来年度以降に威力を発揮してもらうことにします。

以前に当地での行事で聞かれたスズムシ

の鳴き声は、今年も聞くことができませんでした。そこで行事散会后、北田さんの案内で約20分間歩いて移動し、スズムシの鳴き声を聞きました。以下、行事で鳴き声を聞くことができた種(☆印)と採集した種のリストを示しました。

その他の昆虫では、断然、クモヘリカメムシの個体数が多く、参加者の振る網に反応して「臭い」を辺りに充満させていました。自然遊学館所蔵標本としたのは、マユタテアカネ、オオクロトビカスミカメ、モモグロヨコバイ、ベッコウガガンボ、マツカレハ(蛹)、オオミノガ(幼虫)です。

表. 千石荘で確認された直翅類
(2004年9月25日)
★印は鳴き声を確認できた種を示す

目	科	種
バッタ目		
キリギリス科		
		オナガササキリ ★
		ホシササキリ ★
		ウスイロササキリ ★
		セスジツユムシ ★
		サトクダマキモドキ
		クビキリギス (幼虫も確認)
コオロギ科		
		エンマコオロギ ★
		ハラオカメコオロギ ★
		モリオカメコオロギ ★
		カヤヒバリ ★
		マツムシ ★
		アオマツムシ ★
		シバズ ★
カネタタキ科		
		カネタタキ ★
バッタ科		
		ショウリョウバッタ
		ショウリョウバッタモドキ
		イボバッタ
		マダラバッタ (幼虫も確認)
		クルマバッタモドキ
イナゴ科		
		ツチイナゴ (幼虫も確認)
ヒシバッタ科		
		ハラヒシバッタ
ノミバッタ科		
		ノミバッタ (幼虫のみ確認)
カマキリ目		
カマキリ科		
		オオカマキリ
		ハラビロカマキリ



逃げたマツムシ♂

(岩崎 拓)

◆いきものよみもの◆

近木川の水生昆虫3：ムカシトンボ

「生きた化石」と呼ばれる種は、古生代や中生代など古い時代に栄えたグループの一部が、形態をあまり変化させずに、現在も、深海など特別の環境や一部の地域のみ、わずかに生き残っているものです。生きた化石としてまず思い浮かぶものは、シーラカンス、カブトガニ、オウムガイ、メタセコイヤといったところでしょうか。また、他の多くの動植物のグループの中にも、「生きた化石」と呼ばれるものがあります。

貝塚市に生息している昆虫の中では、ムカシトンボがそれに該当します。中生代に栄えたムカシトンボ亜目は、現在では世界中でムカシトンボ科1科1属2種が知られているのみです。1種は東部ヒマラヤ山地に生息するヒマラヤムカシトンボで、もう1種が日本だけに生息するムカシトンボです。幼虫は若い齢では図1のようにツートンカラーの体色ですが、成熟すると体全体が濃い褐色になり

ます。幼虫期間は7～8年と長く、10回以上脱皮して成虫になると考えられます。



図1. ムカシトンボ幼虫

貝塚市内では、近木川上流域の本谷・東手川・御所ノ谷で幼虫が確認されています(図2:岩崎・山田、2002, 2003)。ただ確認されているだけでなく、トンボ目の中でもかなり個体数が多いという結果が得られました(表1)。



図2. 貝塚市内におけるムカシトンボの分布

- は年間6回の調査で幼虫が採集されなかった地点
- は年間6回の調査で幼虫が採集された地点
- ★は田口圭介ほか(1999)によって採集された地点

表1. 貝塚市におけるムカシトンボ幼虫の分布

ムカシトンボおよびトンボ目全体の採集個体数を示した。
 順位はトンボ目の中で採集個体数に関するもの。
 山田・岩崎(2001)、岩崎・山田(2002、2003)のデータより。
 年6回の調査(ただし、本谷の2001年度の調査は年2回)。

調査地	標高 (m)	調査 年度	トンボ 目全体	ムカシ トンボ	割合 (%)	順位
本谷	450	1999	98	19	19.4	3
		2000	93	31	33.3	1
		2001	83	30	36.1	1
東手川	620	1999	72	9	12.5	2
		2000	88	26	29.5	1
御所ノ谷	250	2001	37	7	18.9	2
塔原	380	2000	79	39	49.4	1

2001年度に本谷で行った微小生息場所の調査では、流れの速い「瀬」で29個体が採集されたのに対して、流れの緩い「淵」では1個体しか採集されませんでした。ムカシトンボは、岩の表面に張り付いていることが多く、動きはそれほど敏捷というわけではないので、どうやって餌を捕まえているのか不思議な気がします。

ムカシトンボが多く生息するということは、近木川や津田川の上流の水が清涼である証拠であり、こういう種をはぐくむ環境は、後世に残したい私たちの貴重な財産です。

(岩崎 拓)

【泉州生きもの歳時記】

ハナオコゼ 花虎魚

2004年8月16日、展示魚の採集のために二色の浜にて、博物館実習生の明瀬雅也・大鶴奈津子(近畿大学農学部)さんと共にシュノーケリングを行っているときでした。突堤から近木川河口側の海面を眺めると、何やらゆらゆらとこちらの方向へ向かって浮かんでやって来るものがありました。3人で協力し、捕らえてみるとユーモラスな風貌をしたイザリウオの仲間のハナオコゼでした。この魚は普段、ホンダワラ類などの流れ藻について移動し、その一見派手に見える体は、海藻へのカモフラージュに役立ち、寄って来た小魚を飲み込んでいるようです。

早速、館の展示水槽に入れると一躍、来館者の人気者になっていましたが、水槽の攻撃的な先住魚に身を一部かじられてしまい、その傷をカワハギがつつき、残念ながら今はもう標本になってしまいました。



(山田 浩二)

◆投稿◆

博物館実習を体験して

期間 2004年9月2日～9月12日

実習の中で一番印象に残ったことは市民の人達との触れ合いだった。自然遊学館の規模は小さいが、地域の人達との関わりが大変多く、子ども達もみんな気軽に遊びにきたり、生き物を採集して持ってきてくれたりと地域社会に開かれた博物館である。また、二色の浜という有名な海水浴場のすぐ近くにあり、環境にも恵まれていると思う。学芸員の仕事で大事な教育普及活動の一環として、地元の小学校の課外授業として行われるカニや貝捕りに参加したが、子ども達は珍しい生き物の話や生き物についての問題を出したりすると耳を向けるが、じっと聞くということは難しいようである。しかし、カニや貝捕りは真剣でカニや貝の名前を知ることにもとても興味があるようである。逆に私が教えてもらう時もあったがとても情けなかった。地域の親子の人達とのカニ釣りというイベントもあった。子ども達は、はりきっていてカニを釣った時の子ども達の喜んでいる姿を見ると、とてもいい気分になった。最近は家の中で遊ぶ子どもが多いが、私が実習中に会った子達は自然に触れることが多く、いろいろな経験をすることができずばらしいと思う。自然遊学館が子ども達の自然の生き物に対する興味を引き出しているのかもしれない。このような博物館で実習させていた

だき、また、たくさんのことを経験させていただいてありがとうございました。この経験を生かせるようにこれからもがんばっていきたいと思います。



(近畿大学農学部水産学科 大久保 諒)

◆寄贈標本の紹介◆

**吉田侑生君より寄贈された
高知県産テンの本剥製**



ジオラマに展示されたテンの本はく製

2004年8月17日、貝塚市二色の吉田侑生君より高知県産のテンの本剥製を寄贈していただきました。

テンは一見イタチに似ていますが、イタチより大型で胴体もやや太め。またテン独特の美しい毛並みは、イタチと比べると一目瞭然です。木登りがとてもうまく、カキのような液果を好んで食べます。

テンは貝塚市内でも里山環境の残る場所に生息する哺乳類ですが、自然遊学館には本種の標本がありませんでした。

この本剥製は早速、雑木林のジオラマの中に展示させていただきました。

(西澤 真樹子)

— . — . — . — . — . — . — . — . —

以下の方々より標本の寄贈をいただきました。鳥類、ほ乳類のいくつかは8月6日の行事「野鳥のはく製作」でも活用させていただきました。お礼申し上げます。

- ◆山口進さん・フミ子さんより
貝塚市大川産 コウベモグラ 1点
貝塚市大川産 ニホンノウサギ仔 1点
- ◆前田哲さんより
貝塚市畠中産 スズメ 1点
貝塚市海塚産 ニホンヤモリ 1点
- ◆大槻ゆうきさん、げんきさん、
松本孝之さん・洋之さんより
貝塚市二色産 ヒヨドリ 1点
- ◆食野俊男さんより
貝塚市二色産 メボソムシクイ 1点

- 貝塚市蕎原産 モクズガニ 1点
※ 展示水槽で飼育中
- ◆表大輝さん・沙也さんより
貝塚市津田北町産 センダイムシクイ 1点
- ◆菅尾誠二さんより
貝塚市半田産 ネコ下顎骨 1点
- ◆紺谷拓郎さんより
泉佐野市大木産 カジカガエル 1点
- ◆後藤佳代さんより
泉佐野市産 センダイムシクイ 1点
- ◆岡田真太郎さんより
和歌山県産シマドジョウ 1点
※ 展示水槽で飼育中
- ◆奥田大介さんより
和歌山県日置川産 ヒラテテナガエビ 3点
(※2004年9月分まで)

★自然遊学館スタッフの日誌より★

自然遊学館で起きたいろいろな出来事を
トピックスでお伝えします。

最近、西小学校5年生のころから自然遊学館に飼育の手伝いに来ている山根祥之くんやまねよしゆき(貝塚市立第一中学校1年)が、企画展や飼育動物の餌採り、水槽の掃除、「遊学館だより」の編集、行事の補助、事務作業など、さまざまな手伝いをしてくれています。黙々と仕事をこなす山根君を見ると、将来一体どんな仕事につくのかなあと不思議に思い、インタビューしてみました。何と彼の将来の夢は、パティシエ(洋菓子職人)だそうです!!

(西澤)

自然遊学館ホームページ内のわくわくクラブだより最新号を貝塚市地蔵堂の日高さんに作成していただきました。自然遊学館の行事や展示、調査研究に協力していただいているわくわくクラブの方々の活動報告です。このページの末尾にある奥付の URL から入れます。貝塚の自然を紹介するページや展示案内のページも随時更新していますので、あわせてご覧ください。(岩崎)

貝塚市内には現在、こどもエコクラブが2つありますが、そのうちの一つに当館の活動を通じて結成された「近木っ子探検隊」があります。9月5日にクラブ員が集まり、二色浜のクリーンアップを行いました。たくさん拾ったゴミの中からアルミ缶やペットボトルはリサイクル用のゴミとして出しました。浜には貝殻やカニの脱皮殻など自然の贈り物も打ち上がり、楽しみながらの作業でした。

こどもエコクラブでは新規のクラブを随時、募集していますので、詳しくは当館までお問い合わせ下さい。(山田)

◆お知らせ◆

秋期特別展

貝塚の植物 食用・薬用

期間：2004年10月9日～11月28日

場所：自然遊学館多目的室



ジロボウエンゴサク (撮影・蕎原地区)

食べものとして、時には薬用として、人々に昔から利用されてきた植物。貝塚市内に自生する1,100種あまりの植物の中から、約150種を写真・標本・生花で紹介します。

自然遊学館だより 2004 秋号 (No.33)

貝塚市立自然遊学館

〒597-0091

大阪府貝塚市二色3丁目26-1

Tel. 0724 (31) 8457

Fax. 0724 (31) 8458

E-mail: shizen@city.kaizuka.osaka.jp

<http://www.city.kaizuka.osaka.jp/shizen/index.htm>

発行日 2004.10.8

この小冊子は市内印刷で作成しております。